企業名：　　いすゞ自動車株式会社

レポート名：　統合報告書２０２１

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

企業理念である『「運ぶ」を支え、信頼されるパートナーとして、豊かな暮らし創りに貢献します。』や、取締役社長片山正則氏のメッセージ「世界中の人々が豊かで安全に暮らせるためにイノベーションで社会に貢献する集団になる」から読み取れるように、商品を改良し販売することで、商用車メーカーとして人々に貢献していける企業を目標としている。また、気候変動への対策をはじめとしたさまざまな社会課題について考えており、その事業の中で SDG s に貢献する企業を目標としていることも読み取れる。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

この会社は製品の販売後のアフターサービスを充実させており、その点で顧客の満足度を高めている。また MIMAMORI（みまもり）や PREISM（プレイズム）といったコネクテッドサービスや、リース事業、中古車販売事業などのアフターセールス事業が国内外で行われていることも読み取れる。

「価値創造プロセス」の中に「価値創造を支える競争力の源泉」が載っており、開発力、生産力、販売・生産力、人材力、財務基盤、環境対応力に分かれたこの企業の強みが一目でわかるようになっている。中でも開発、生産、販売を世界中で行っている点が大きいと考えられ、それによりいすゞ自動車は市場の広いグローバル企業となっている。

いすゞ自動車はトラックの生産・販売を主に行っており物流業界を支えているが、これは今の私たちの生活には欠かせない事業であると考えられる。最近人々はインターネット上で買い物をすることが増えており、注文した商品がすぐに届くのが普通になってきている。それを可能にしているのが荷物を運ぶトラックの存在である。もしいすゞ自動車が無くなってトラックの数が少なくなってしまったら、人々は多くの不便を感じるようになるだろう。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

この会社はアジアやアフリカの多くの国で商品の販売を行っている。それらの地域には発展途上国が多く位置しており、その国々が経済発展をしていく過程でトラックやバスといった商業用自動車が多く必要とされることが予想される。そのため、海外における商品の需要は増加すると考えられる。またインターネットでの買い物は今後、より主流になっていくと考えられるため、物流を支えるトラックは変わらず大切な役割を担っていくだろう。そのため、競合優位性には十分に持続性があると言える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

前述したようにいすゞ自動車は SDG s を意識している会社で、中でも気候変動対策のカーボンニュートラル達成に力を入れていることが読み取れる。よってこの会社で働くことで、事業の中でただ利益をあげるだけでなく、環境への影響や社会への貢献も意識しながら利益をあげられるような新しい方法を生み出していくクリエイティビティが身につくと思う。また多くの国に進出しているため、日本だけでなく他国の様々な部署と連携をとりながら働いたり、実際に海外の部署で働くことによりグローバルな人材になることができると思う。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

この統合報告書が、そもそもいすゞ自動車に興味を持つ大人の方々を主にターゲットにしているため仕方がないことではあるが、読んでいて全体的に堅苦しさを感じてしまった。もちろん、正しい情報を間違いなく伝えるため真面目に書くことが求められているが、61ページもある中で文字数も多く、見ている人は途中で疲れてしまったり内容がよくわからなくなったりしてしまうだろう。

そのため、少しポップな図やイラストを多く交えながら文章を書いていくことで読者を飽きさせず、さらに、より簡単に内容を理解してもらえることが期待される。また、「役員一覧」の各役員の情報の中に、それぞれのどこかほっこりするようなエピソードやプロフィールを書いてみると、読者に楽しんでもらえるかもしれない。